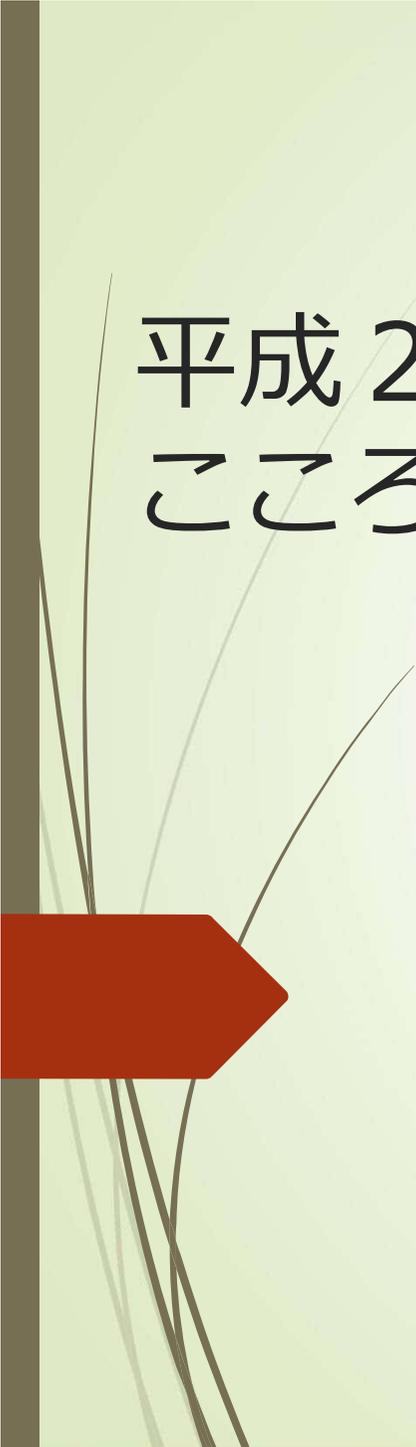


## 配布資料一覧

- (1) 次 第
- (2) 平成29年度 こころの健康センター業務実績の概要報告（ヨコ）
  - ・こころの健康センター事業報告
  - ・ひきこもり相談センター活動報告
  - ・子どもの精神保健相談室について
- (3) 委員名簿
- (4) さいたま市こころの健康センター運営協議会設置要綱
- (5) 平成28年度さいたま市こころの健康センター所報
- (6) さいたま市子ども家庭総合センターリーフレット



# 平成29年度 こころの健康センター事業報告

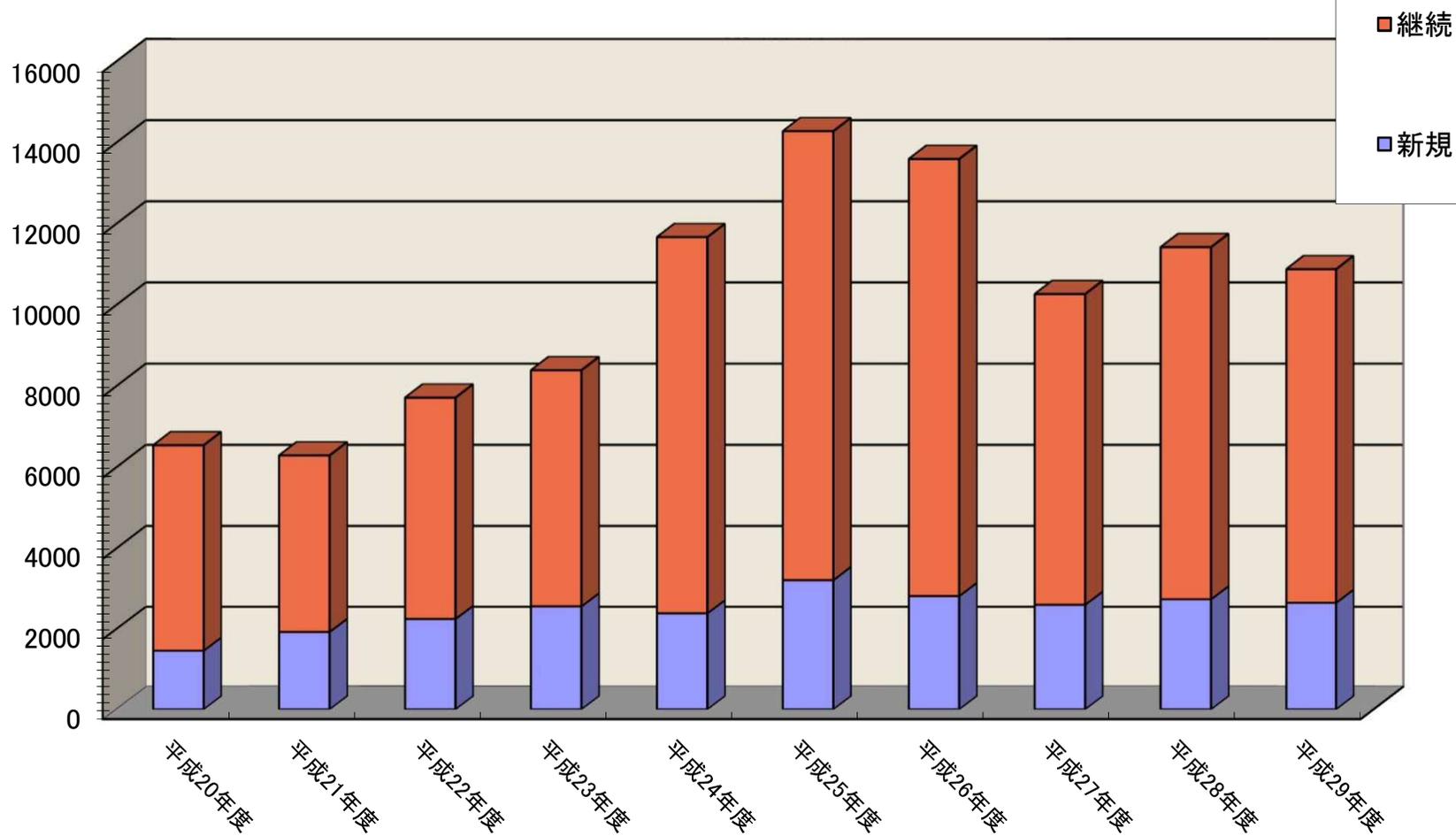
平成30年3月29日（木）  
こころの健康センター運営協議会

# 平成29年度の動向

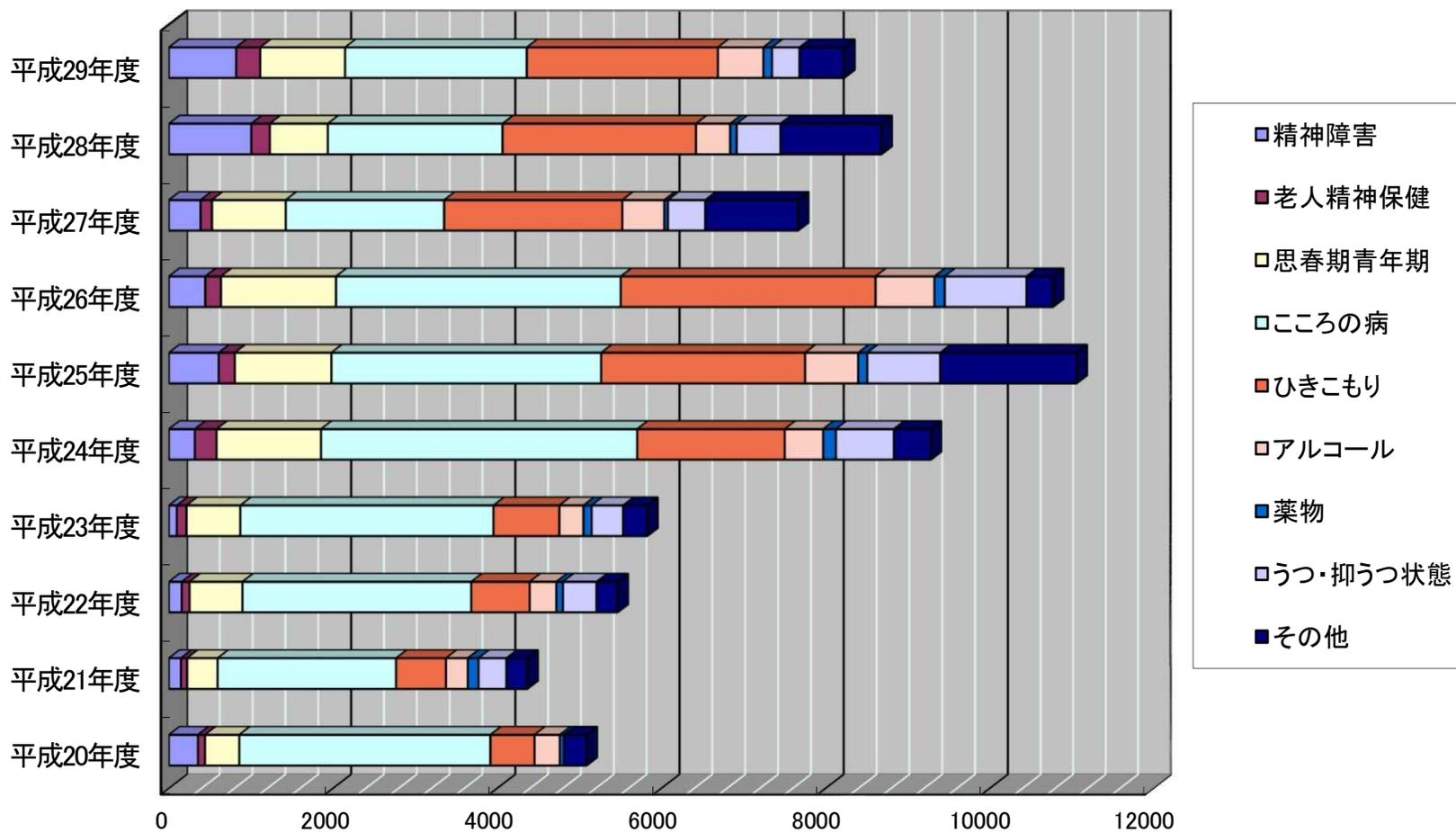
- 精神医療審査会の体制整備
- 依存症対策事業の拡充（依存症支援者研修等）
- 新規計画への事業掲載
  - しあわせ倍増プラン2017  
「精神障害者を支える地域包括ケアシステムの構築」
  - 総合振興計画後期計画次期実施計画  
「自殺対策推進事業」「ひきこもり対策推進事業」  
「精神障害者を支える地域包括ケアシステムの構築」
- 新所長着任（1月）
- 子ども家庭総合センターへの移転（2月）

# 精神保健福祉相談（個別相談件数の推移）

平成29年度は推計値。電話・面接・相談の総計。



# 精神保健福祉相談（個別相談件数）



# 技術支援・技術指導

(精神保健福祉士の区役所派遣事業)

こころの健康センターより  
精神保健福祉士を派遣

毎週金曜日に  
こころの健康センターに帰庁  
事例検討を行う

支援

- ・区役所の担当と面接同席、訪問同行
- ・ケース会議への出席
- ・区役所での研修実施 など

区役所健康福祉部

【福祉課】  
生活保護  
生活困窮者支援

【支援課】  
障害福祉  
児童福祉

【保健センター】  
母子保健  
成人保健

【高齢介護課】  
高齢福祉  
介護保険

相談・ケースワークを担当する職員の支援を実施

# H29年度の各区への派遣状況

南チーム

南区役所

緑区

浦和区

北チーム

北区役所

見沼区

岩槻区

大宮チーム

大宮区役所

桜区

中央区

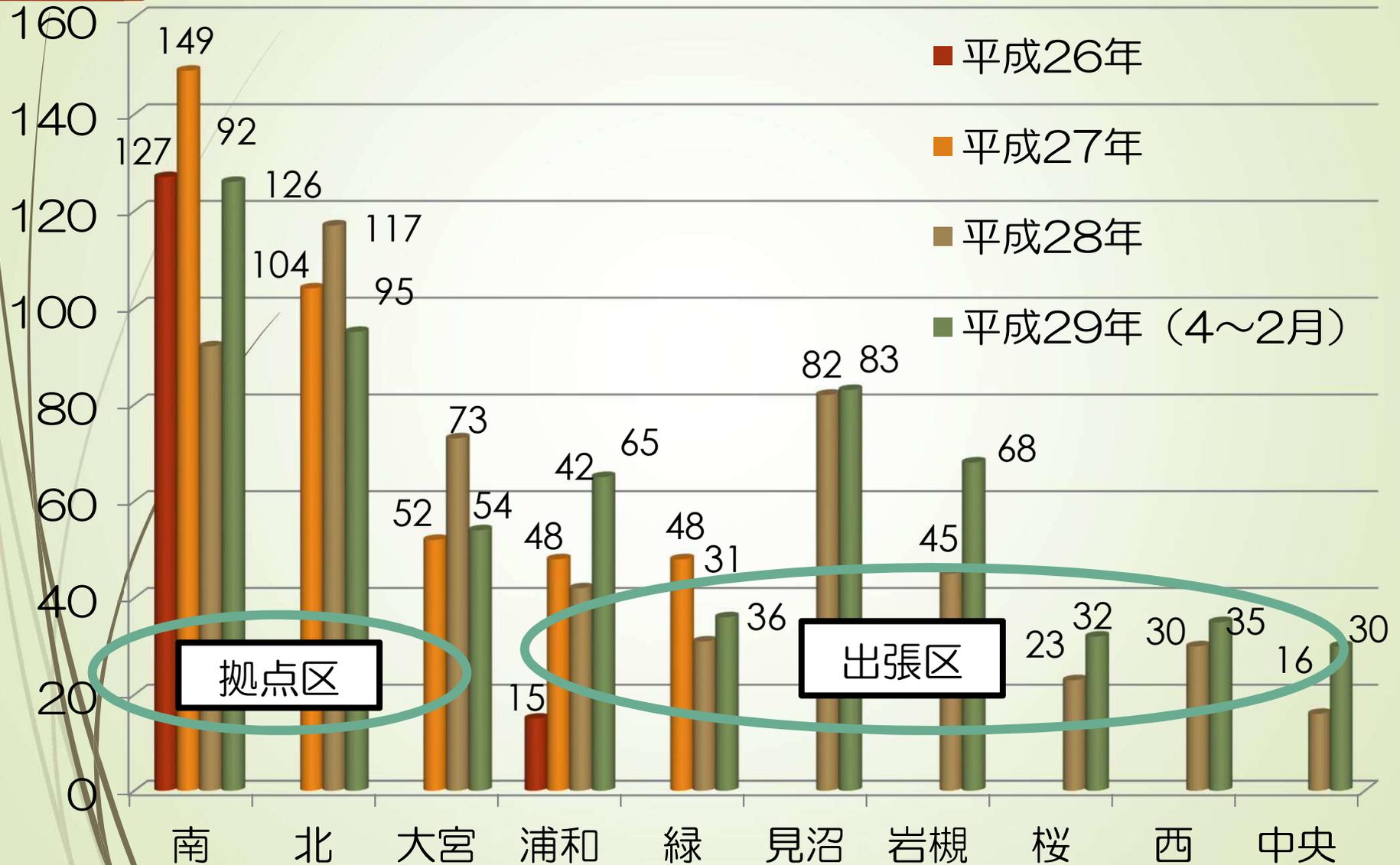
西区

※南、北、大宮以外の7区は  
週1回半日  
を基本とした随時  
の出張対応

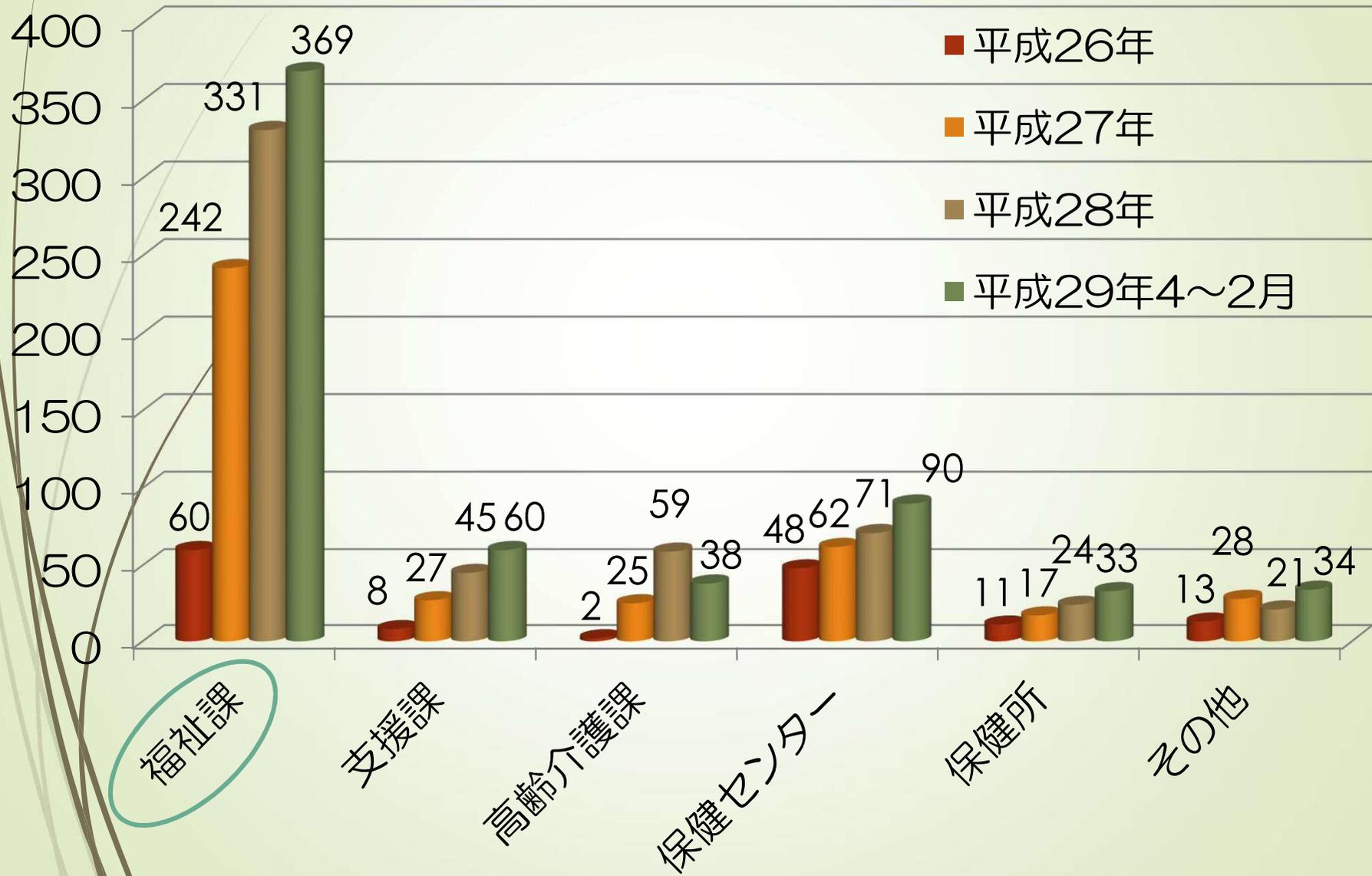
※(月)~(木)の  
4/週 在席

全3チーム × 各2名 = 計6名で対応

# 統計（区役所別事例件数）



# 統計（所属別事例件数）



# 教育研修

## 精神保健福祉基礎研修

精神保健福祉に関する基礎知識、相談対応等を学ぶ研修  
(実績) 5月25日 28日実施 延141名参加

## アディクション研修

「アルコール・薬物・ギャンブル依存症の理解と本人・家族の対応について」

(講師) ジャパンマック代表理事 岡崎直人氏等

(実績) 6月2日実施 70名参加

## 専門研修

「医療観察法の理解と現状～対象者の地域での支援を考える～」

(講師) さいたま保護観察所

社会復帰調整官 古川 智之 氏

(実績) 1月30日実施 46名参加

# 組織育成

## 精神保健福祉地域ネットワーク連絡会

地域の支援機関、医療機関、行政と家族会・患者会等の顔の見えるネットワークづくりのための連絡会（研修会）。こころの健康センター・精神保健課・障害者生活支援センターの代表が事務局となっている。

（テーマ）「精神障害者が地域で安心して生活するために  
～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを考える～」

（日 時）10月31日（火）

（会 場）さいたま市保健所研修室

（情報提供）「次期障害者総合支援計画について」 障害支援課職員

（話題提供）「地域での包括的な支援について」

- ・当事者・家族の立場から
- ・クリニックの立場から
- ・障害者生活支援センターの立場から
- ・行政機関の立場から

（グループワーク）ワールドカフェ方式による意見交換

（実 績） 52名参加

\*まとめた意見を、計画のパブリックコメントとして提出

# 自殺対策推進事業

## 普及啓発

講演会（産業保健総合支援センターと共催）

「女性のからだところどころのセミナー

～うつからの回復と女性の就労～」

（日時）11月23日（木） ※託児あり

（会場）武蔵浦和コミュニティセンター

（講師）若松町ところとひふのクリニック 加茂登志子 医師

手賀沼病院 菅原 まゆみ 臨床心理士

（実績）54名参加

図書館キャンペーン（9月5日～9月18日）

9月の自殺予防週間に合わせて、中央図書館にパネルや書籍等を展示

街頭キャンペーン（9月11日、3月1日）

自殺対策強化月間等にあわせ、県と協力し、大宮・浦和駅で啓発品を配布

若年層向けカード型パンフレットの配布

市内大学等へカード型パンフレットを配布

# 自殺対策推進事業

## うつ病対策

### うつ病家族教室

うつ病患者の家族（配偶者等）を対象とした家族教室。土曜日に実施。

半日3回コース（託児あり）

（実績） 9月2日 9月9日 9月30日 延25名参加

## 支援者養成

### ゲートキーパー養成研修

自殺を防ぐ門番（ゲートキーパー）としてのスキルを身に着けるための研修。

（実績） 7月7日 10月12日 11月21日実施 合計67名養成

### 地域支援研修

庁内外の支援者向けに自殺に関連の深いテーマで研修を実施。

今年度は、ギャンブル依存をテーマに実施。

# 自殺対策推進事業

## 自殺未遂者対策

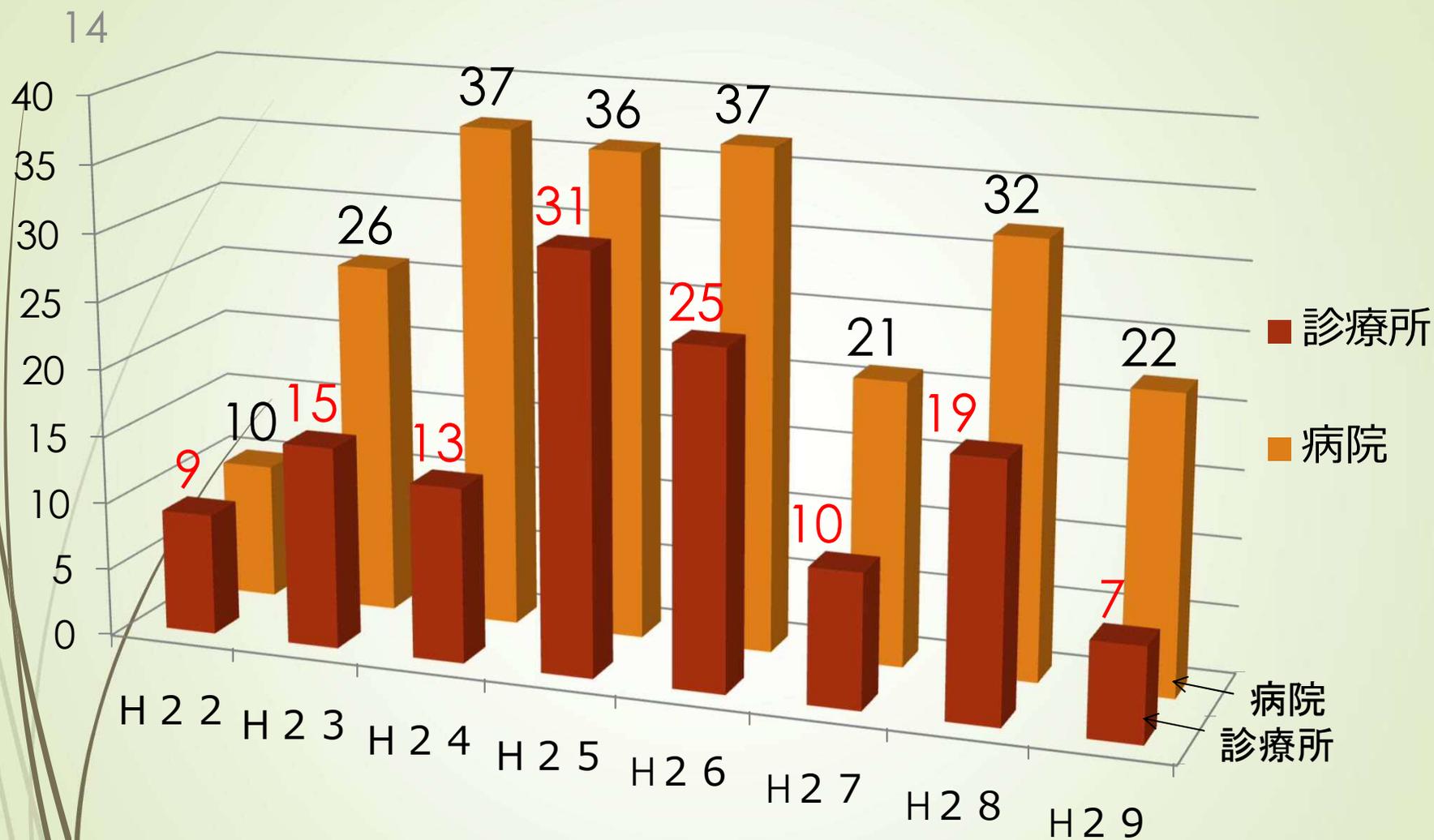
### 自殺対策医療連携事業（GPEネット）

自殺未遂や希死念慮のある方を速やかに精神科医療へつなぐシステム。

必要に応じて、事務局が事業利用後のフォローアップを行う。

- 1 病院連携事業（1月末まで 22件）  
救急医療機関と精神科病院の連携。
- 2 診療所連携事業（1月末まで 7件）  
一般医療機関、行政機関等と精神科診療所の連携。
- 3 自殺対策医療連携事業連絡調整会議（7月6日、3月8日）  
事業の円滑な運営と、より一層の連携強化を目的に実施。

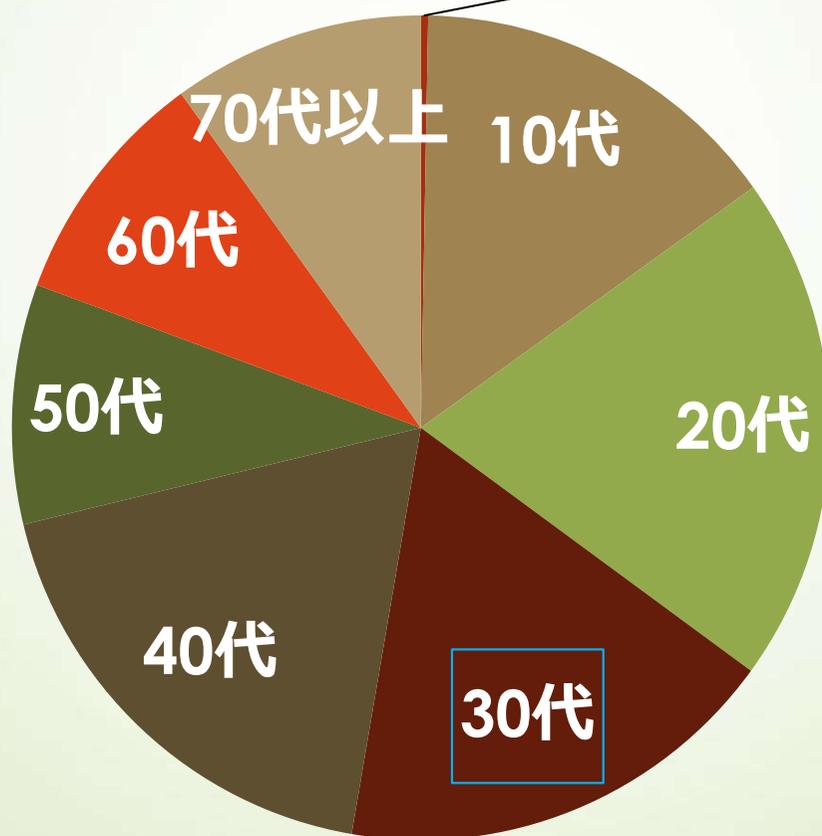
# 医療機関別 事業利用件数



# 年齢別事業利用者数（累計）

年代別利用者数（累計）

10未満



# 依存症対策地域支援事業

## 相談事業

アルコール・ギャンブル・薬物の依存に関する個別相談（拡充）

月に1回相談日を設け、市報等で広報し予約制で実施。専門相談員が対応。

（実績）11回実施 相談件数 45件

（アルコール24件、薬物8件、ギャンブル9件、他4件）

## HAPPYプログラム

多量飲酒など飲酒問題のある方を対象とした節酒のためのプログラム。

（実績）随時実施 延6回

## グループ事業

### 依存症家族教室

アルコール、薬物、ギャンブル等依存症の問題のある方の家族のための教室。

（実績）3回1クール 2クール実施 延70名参加

### ベターコミュニケーショングループ（BCG）

依存症やうつ病、ひきこもり等の問題のある家庭内のコミュニケーションを改善するためのグループ。

（実績）9回1クール実施 延62名参加

# 依存症対策地域支援事業

## 組織育成・研修等

### 地域支援研修（県と共催）

- ① 「ギャンブル依存症の理解と依存症の方への関りについて」
- ② 「GAメンバーによる体験発表」

（講師）雷門メンタルクリニック 院長 伊波真理雄 氏

### 依存症関連機関情報交換会

依存症問題にかかわる行政機関、支援機関、医療機関、自助グループ等の情報交換や研修等を目的に実施。

- ① 「ギャンブル依存症に関する弁護活動」  
東京パーソナル法律事務所弁護士 森野嘉朗氏
- ② 「ギャンブル依存者の家族への支援について」  
ジャパンマック代表理事 岡崎直人氏
- ③ ワールドカフェ方式でのグループワーク

（実績） 11月29日同日開催 延60名参加

# 依存症対策地域支援事業

## 依存症支援者研修会（新規）

依存症に関わる支援者を対象としたシリーズ研修。

第1回 「アルコール・薬物・ギャンブル依存症の理解と本人・家族の対応について」(アディクション研修として実施)

第2回 「アルコール依存症の方のインテークとアセスメントのポイント」

第3回 「動機づけ面接法とHAPPYプログラム」

第4回 「薬物依存症の理解と地域での支援

～刑の一部執行猶予を踏まえて～」

第5回 「自助グループと社会資源」

(講師) ジャパンマック代表理事 岡崎直人氏他

(実績) 5回実施 延180名参加

# 依存症対策地域支援事業

## 普及啓発事業

「図書館キャンペーン」 (新規) 11月10日～16日

中央図書館にアルコール依存症等に関するパネルやパンフレット等を展示。

(アルコール関連問題啓発週間に合わせて実施)

## 技術支援

依存症に関連する回復施設や保護観察所でのカンファレンス等へ定期的に参加している。

- ・ さいたまマック事例検討会 月1回
- ・ 薬物地域連携会議 (保護観察所主催) 年6回
- ・ 埼玉ダルクCC 月1回
- ・ 保護観察所 (薬物処遇プログラム) 月1回

# 平成30年度事業について

- ➡ ・訪問支援強化のための関係者研修の実施  
(合わせて、31年度開始予定の訪問支援モデル事業の準備)
- ➡ ・精神保健福祉法改正への準備
- ➡ ・国の示す「依存症治療拠点医療機関」「依存症専門医療機関」「依存症相談拠点機関」等への体制整備
- ➡ ・子ども精神保健相談系の体制強化に向けた検討

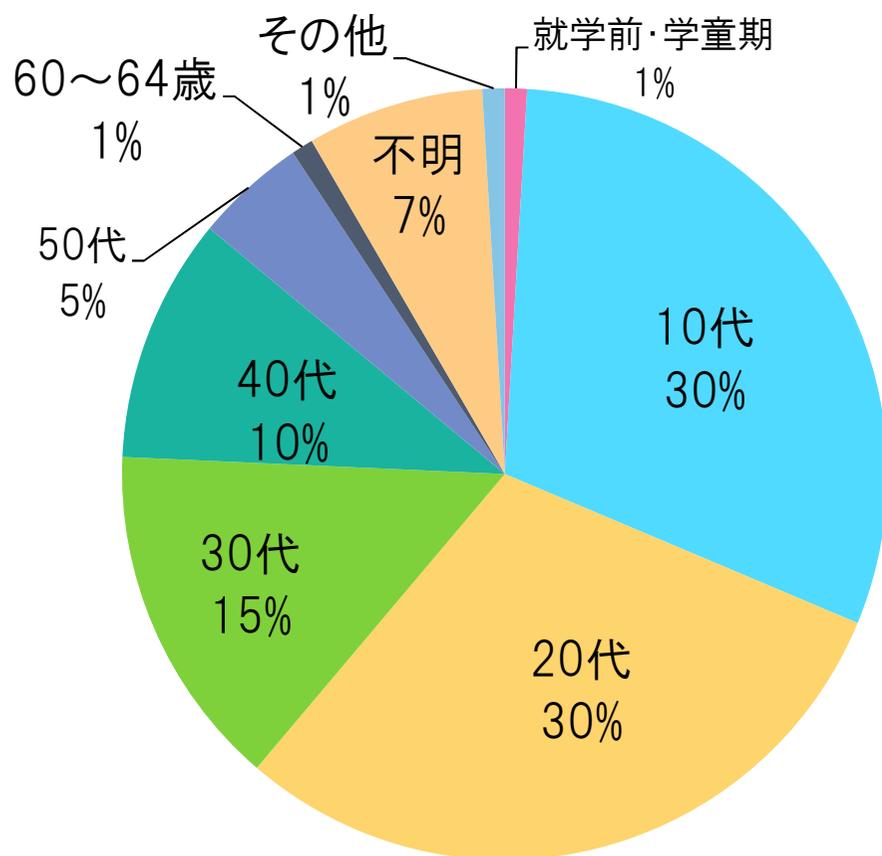
# 平成29年度ひきこもり相談センター 実績報告

- 今年度事業報告
- 来年度の事業予定

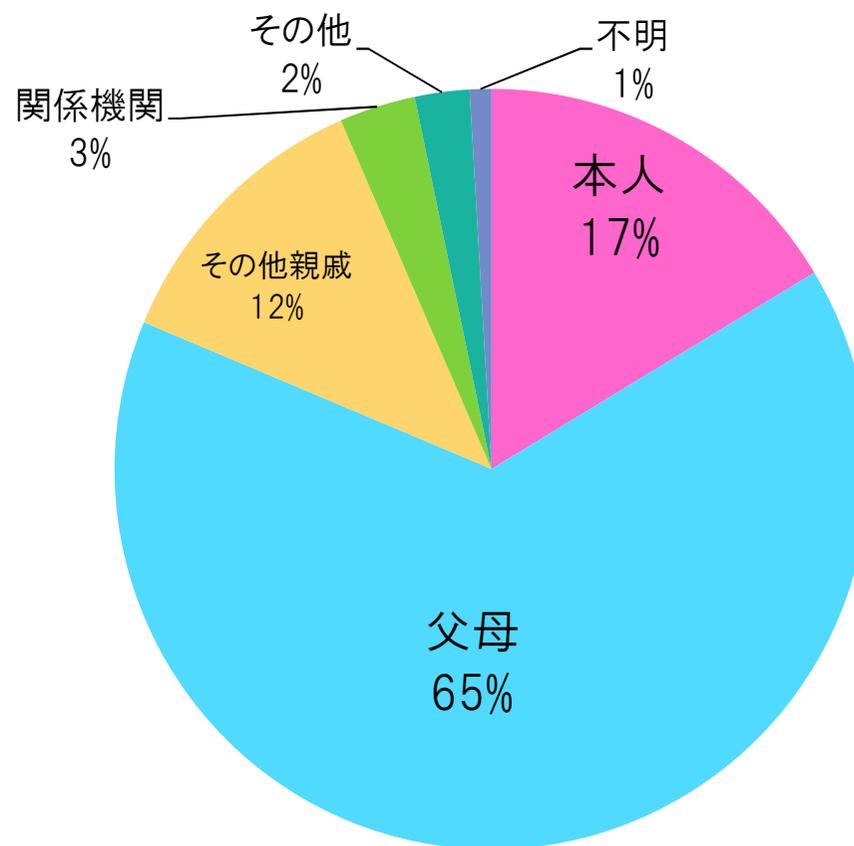
# ひきこもり相談センター統計①

平成29年度 4月～1月(10か月)

ひきこもり専用相談電話 延214件(実185件)



本人の年代



相談者

# ひきこもり相談センター統計②

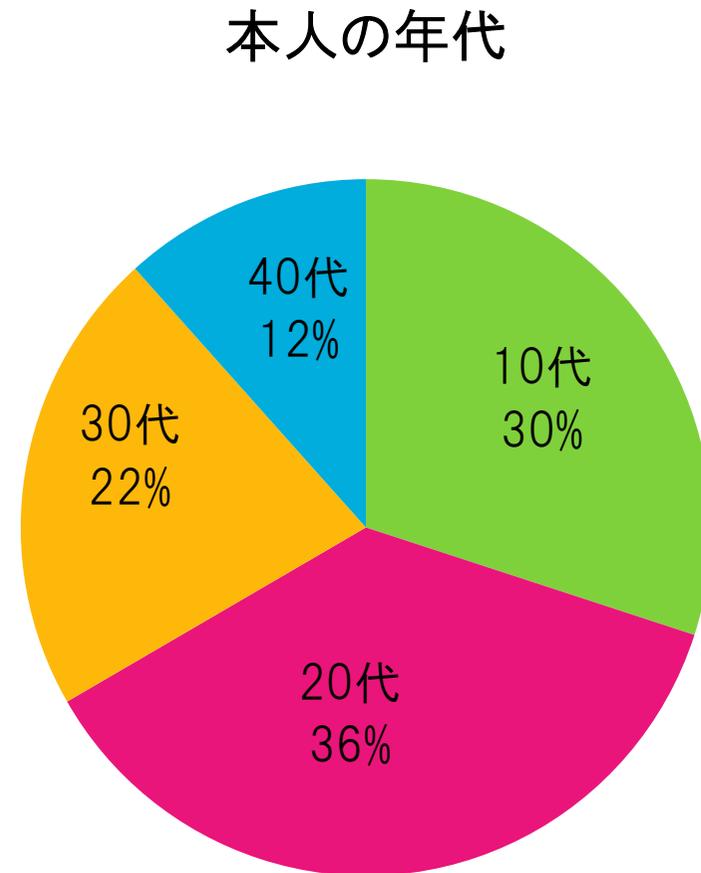
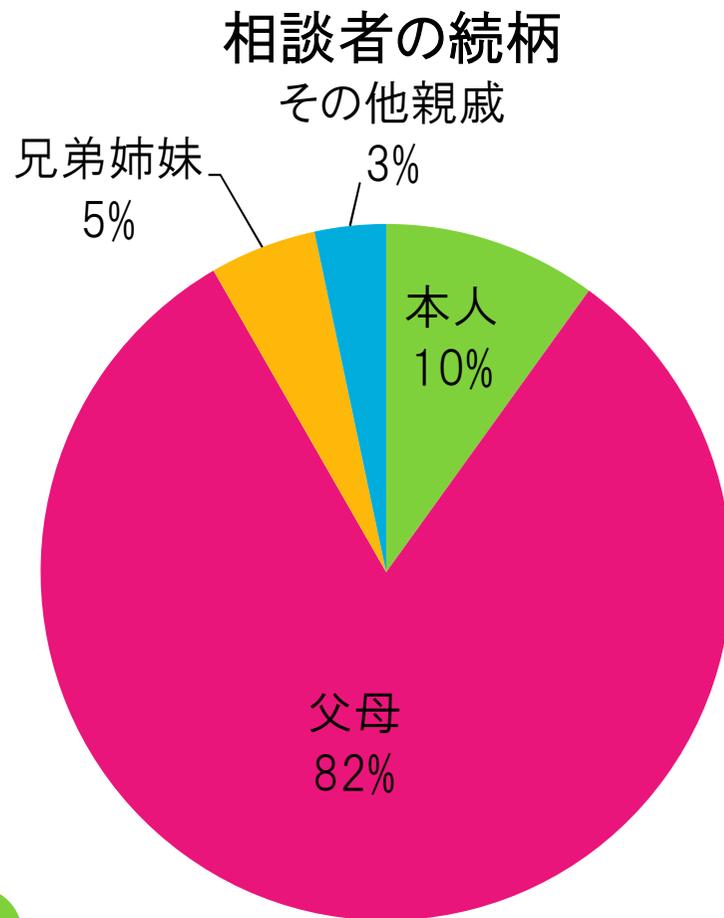
## 電話相談のうち来所相談予約につながったのは60件

### 相談結果（上位6項目）

来所相談予約・すすめ	60	助言終了	59
他電話回線へ （こころの健康センター相談電話、子どもの精神保健福祉室相談電話、こころの電話）	19	他の支援機関へ	14
医療機関紹介	8	市役所の関係機関へ （福祉事務所、保健所、保健センターなど）	7

# ひきこもり相談センター統計③

## 来所相談予約につながった60件の内訳



# ＜平成28年度ひきこもり相談延べ件数＞

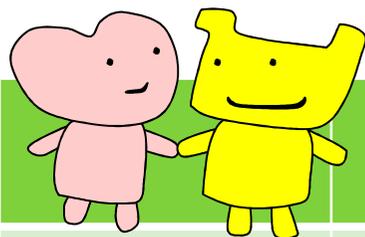
※こころの健康センター統計(ひきこもり相談センター専用  
電話・メールを含む)

※子どもの精神保健相談室(小4～中3)は含まない

## H28年度ひきこもりに関する相談延べ件数 (件)

相談延べ件数	2,102
(内訳) 面接延べ件数	1,234
(内訳) 訪問延べ件数	281
(内訳) 電話・手紙・メール延べ件数	587 (内、ひきこもり専用 電話・メール:235)

# グループ活動（本人）小学生～中学生



## コッコロンvillage

対象	小学4年生～中学3年生	※登録数：13人
日時	毎週月曜日	12:00～16:00
目的	自宅以外の活動場所・居場所を提供し、子どもたち同士が安全に触れ合うことで、主体性や自主性が養われる	
内容	お昼ごはんを食べたり、おしゃべりやゲーム、絵を描いたり、参加する人が過ごし方を自由に選びます。不定期にイベントを開催しています。	
参加人数	延142人（平成29年4月～12月） (平均参加数：4人)	

# グループ活動（本人） 高校生～青年期

## コレッタ・ひととき

対象 15歳～30歳代 ※登録数：21人

日時 毎週水曜日（月4回） 13:00～15:00

目的 対人関係やコミュニケーションの練習が必要と思われる方、社会的なスキルを身に付ける機会が必要だと思われる方を対象に、日常生活における様々なスキルを身に付ける。

内容 毎月、メンバーとスタッフでプログラムを決め、卓球、バドミントン、トランプ、書道、絵葉書などを行っています。近くの公園に出かけ、軽スポーツをすることもあります。

参加人数 延382人（平成29年4月～12月）  
（平均参加数：10.6人）

夏祭り



体育館でスポーツ



製作物



# グループ活動（家族）

	思春期親の会	ひきこもり親の会
対象	小学4年生から高校生の思春期の悩みを持つ親の方	ひきこもり状態を呈した子を持つ親の方
開催頻度	年1回(5回1クール)	年1回(5回1クール)
目的	グループワークを通じたプログラムにより、参加者がエンパワメントし、家族機能を高める	グループワークを通じたプログラムにより、家族の不安や負担の軽減や家族の力を高める
内容	思春期の心理 思春期に現れやすい精神疾患 家族の関係性 対応のポイント 交流会	ひきこもりとは 青年期に現れやすい精神疾患 体験談 対応のポイント 交流会
参加人数	延21人	延33人

# 新規事業（平成30年度より実施予定）

## ステップアッププログラム

対象

15歳～30歳代  
※コレッタ・ひととぎに参加している方

日時

奇数月第2火曜日（年6回）13:00～15:00

目的

対人関係やコミュニケーションの練習が必要と思われる方、社会的なスキルを身に付ける機会が必要だと思われる方を対象に、就労支援機関の見学やボランティア活動を通して、就労に向けて必要な知識やマナーを身に付け、就労意欲を高める。

内容  
(予定)

サポートステーションさいたま見学、  
若者自立支援ルーム見学、事業所見学  
メイクアップ講座、マナー講座、  
児童施設や福祉施設でのボランティア体験 等

# 講演会

- 開催日：平成29年10月27日13時30分～16時20分
- 会場：与野本町コミュニティセンター 多目的ルーム（小）
- 参加者：81名
- 内容：**講演会「ひきこもりへの理解と家族の役割」**  
講師 東洋大学ライフデザイン学部  
教授 白石 弘巳 氏  
**体験談発表 ご本人の立場から**

## <アンケートから>

「ひきこもり本人の気持ちが分かって良かった。」 「ひきこもりと自己肯定感、人との信頼関係、居場所は密接な関係があると分かりました。」 「家族の大切さ、家族から言われて辛いことなどをリアルに聞かせてくれたのでとても貴重でした。」

# 普及啓発・職員研修

- 「ひきこもり家族の体験談集」を2000部増刷  
関係機関への送付、窓口での配布を行っている。
- ツイッターの配信  
月に2回、さいたま市広報課アカウントにて、ひきこもり  
相談センターの案内を配信
- 職員スーパービジョン（事例検討）  
平成29年8月28日、12月18日  
スーパーバイザー：ひがメンタルクリニック  
院長 比嘉 千賀 氏

# ワーキンググループ

## 児童・思春期部会

- 開催日  
平成29年7月10日
- 内容
  - ①各機関からの情報提供
  - ②事例検討  
事例提供:ひがメンタルクリニック  
森本委員  
さいたまユースサポートネット  
飯田氏
- 参加者 12名  
(委員等7名、事務局5名)

## 成人期部会

- 開催日  
平成29年7月6日
- 内容
  - ①各機関からの情報提供
  - ②事例検討  
事例提供:若者自立支援センター埼玉  
山口委員  
こころの健康センター  
太田主事
- 参加者 12名  
(委員等7名、事務局5名)

会場 こころの健康センター 子どもの精神保健相談室 研修室

# ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会

## □第1回

開催日：平成29年6月30日（金）

会場：横浜市青少年相談センター

講演会：ひきこもり支援におけるライフプランの考え方

講師 社会保険労務士・ファイナンシャルプランナー 浜田 裕也 氏

パネルディスカッション

：ひきこもりの高齢化とその対応

〈内容〉堺市こころの健康センター、仙台市ひきこもり地域支援センターより、各自治体で行っている当事者活動についての発表

## □第2回

開催日：平成29年12月11日（月）

会場：兵庫県民会館

講演会：地域福祉との連携

講師 豊中市社会福祉協議会

コミュニティソーシャルワーカー勝部 麗子 氏

パネルディスカッション

：地域福祉との連携

＜内容＞南国市社会福祉協議会、熊本県ひきこもり地域支援センター、滋賀県ひきこもり支援センターより、実践報告や課題について発表

# サポーター一訪問等事業

- 目的** 社会参加に向けて、ひきこもりご本人・家族を支援する。
- 対象** 当センターで継続相談を行っている方などで、相談担当との話し合いの上、利用について同意している方。
- 支援内容** 月1～2回、訪問（話をする、趣味やゲームをする）や外出支援などを行う。相談担当が派遣目標・支援内容を計画し、約半年ごとに振り返りをする。

## 今年度実績（12月末時点）

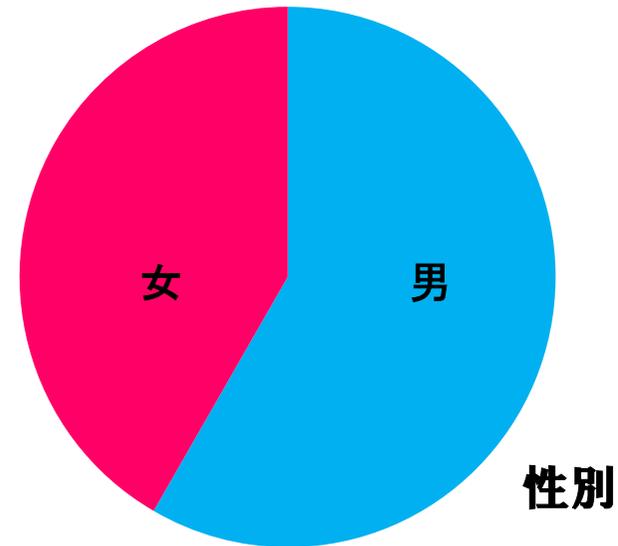
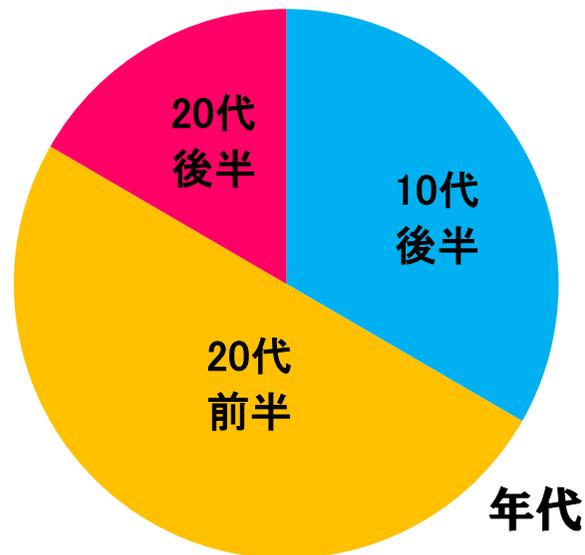
- 派遣回数 85回
- 対象者 今年度実人数 12名（現在派遣中11名）

派遣種別	本人への訪問	5名
	外出支援	4名(内1名終了)
	学習支援・SST	3名
	グループへの協力	3回

## 活動したサポーター数

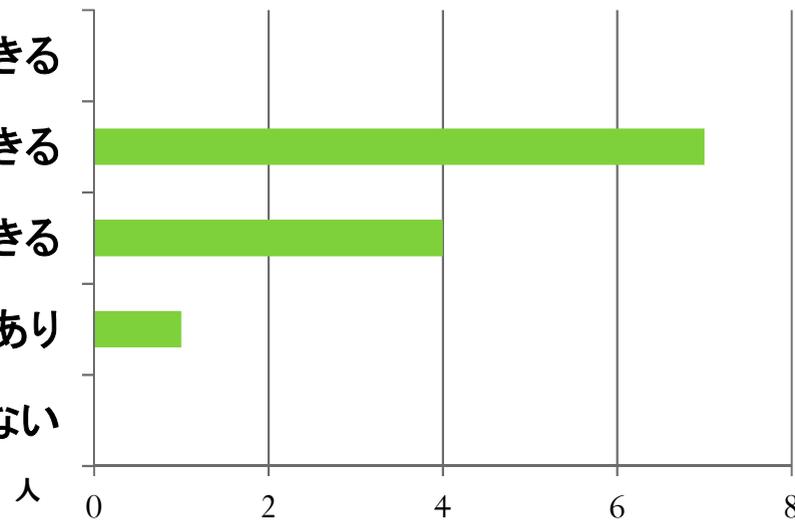
登録23名(活動可能18名)のうち、10名が1回以上活動

## 対象者背景



## 派遣開始時のひきこもりの状態

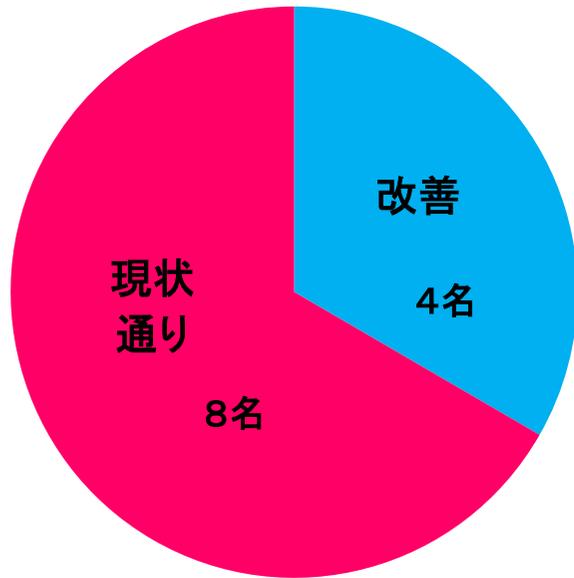
- ⑤しばしば一人で外出できる
- ④時々一人で外出できる
- ③家族と一緒に近くへ外出できる
- ②家からは出ないが家族との会話あり
- ①家から出ず家族とも会話がな



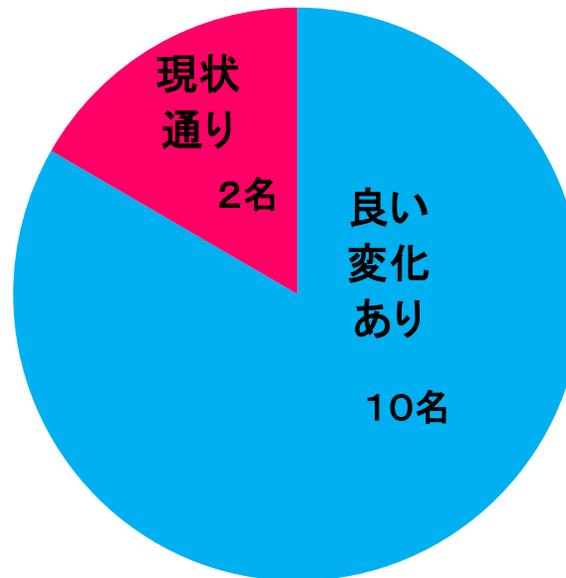
# 評価

(平成29年4月1日⇒平成29年12月31日まで)

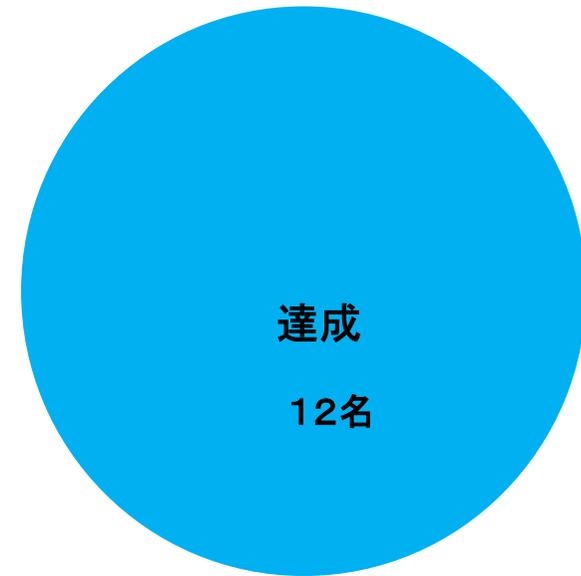
ひきこもりの  
状態変化



生活状況  
の変化



支援目標の  
達成状況



# サポーターフォローアップ研修

## □1回目「CARE ワークショップ」への参加

平成29年8月1日（火）

13:15～17:00

参加者：7名

## □2回目「活動報告会」

平成29年12月27日（水）

10:00～12:00

内容：事業実績報告、サポーター活動報告

参加者：3名

# サポーター養成研修

日時：平成29年12月9日（土）

対象：ひきこもり対策連絡協議会委員からの推薦者  
及び近隣大学の学生 10名程度

内容：

12月 9日	1	ひきこもりとは	当センター職員
	2	ひきこもりと精神疾患	精神科医師 小澤いぶき氏
	3	関係の作り方	ひがメンタルクリニック 臨床心理士 森本佳代氏
	4	サポーター倫理等	当センター職員
	5	体験談発表 サポーター活動報告	活動中のサポーター 2名

参加者：14名（男性2名、女性12名）

年代：10代 1名、20代 12名、30代 1名

所属：大学生

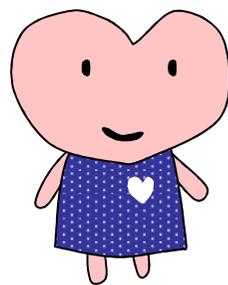
## 来年度の主な事業（予定）

事業名	実施予定
連絡協議会	年1回（1月頃）
ワーキンググループ	児童思春期・成人期 各1回（7月頃）
サポーター養成研修	実施（予定）
サポーター派遣事業	年110回
サポーターフォローアップ研修	年2回
コレッタ・ひととき	月4回（毎週水曜午後）、 ステップアッププログラム を年6回（新規）
ひきこもり親の会	年1クール（5回1クール）
講演会	年1回
作成物	リーフレット3種類、 冊子2種類増刷

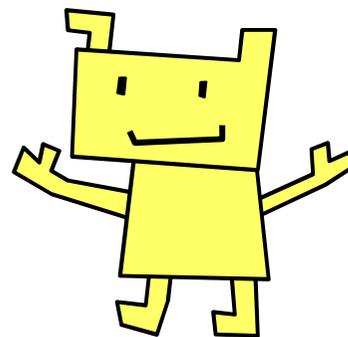
# 今後の課題

- **当事者グループ事業の拡大**
  - コレクタ・ひとときにおいて  
ステップアッププログラムを実施  
年6回（マナー講座、メイクアップ講座、  
障害福祉サービス事業所や自立支援ルー  
ム、地域若者サポートステーションの見学）
- **サポーターの養成、フォローの充実**
  - 幅広い年代、多様な趣味や特技のあるサポーターの獲得  
男性サポーターの獲得  
フォローアップ研修の充実（スキルアップ研修）

# 29年度子どもの精神保健相談室について

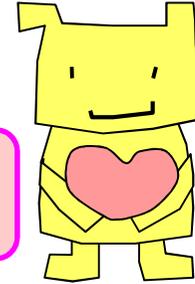


コッコリン



コッコロン

# さいたま市こころの健康センター 子どもの精神保健相談室



平成19年7月に開設

## 相談体制

- ◆対象：市内在住・在学の小学校4年生～中学生
- ◆電話相談日：火・金曜 9～17時
  - 相談内容に応じて来所（面接相談）  
or助言指導or他機関紹介等
- ◆面接相談・ケースカンファレンスは随時実施
- ◆診療業務（診断・処方）は行っていない
- ◆職員構成：
  - ・臨床心理士 2名（1名育児休暇中）
  - ・保健師 3名
  - ・精神保健福祉士 1名
  - ・児童精神科医師 1名

（医師は、主にスタッフのアドバイザー・コンサルテーション業務） 2



# 業務の概要



## ① 相談業務

個別相談  
(直接支援)

関係機関への  
技術援助  
(間接支援)

② グループ事業  
親グループ  
子どもグループ

③ 心理教育  
心理療法

④ 教育研修

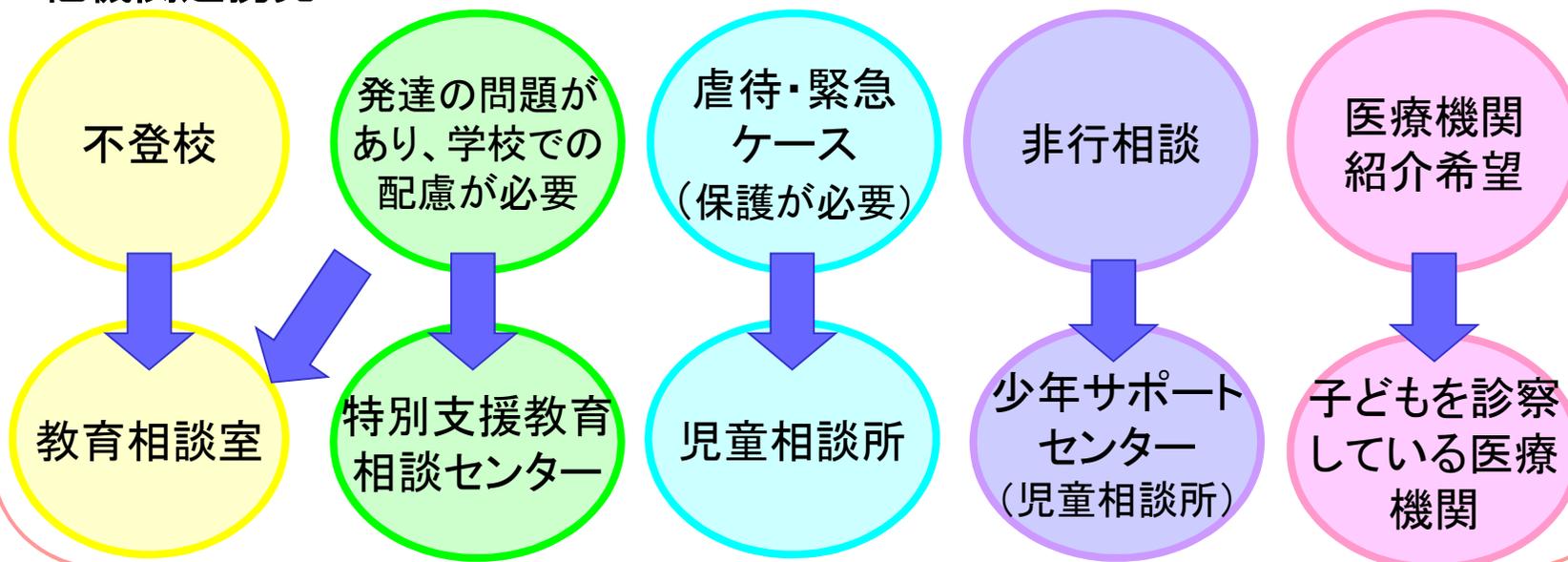
⑤ 普及啓発

⑥ 会議等への出席

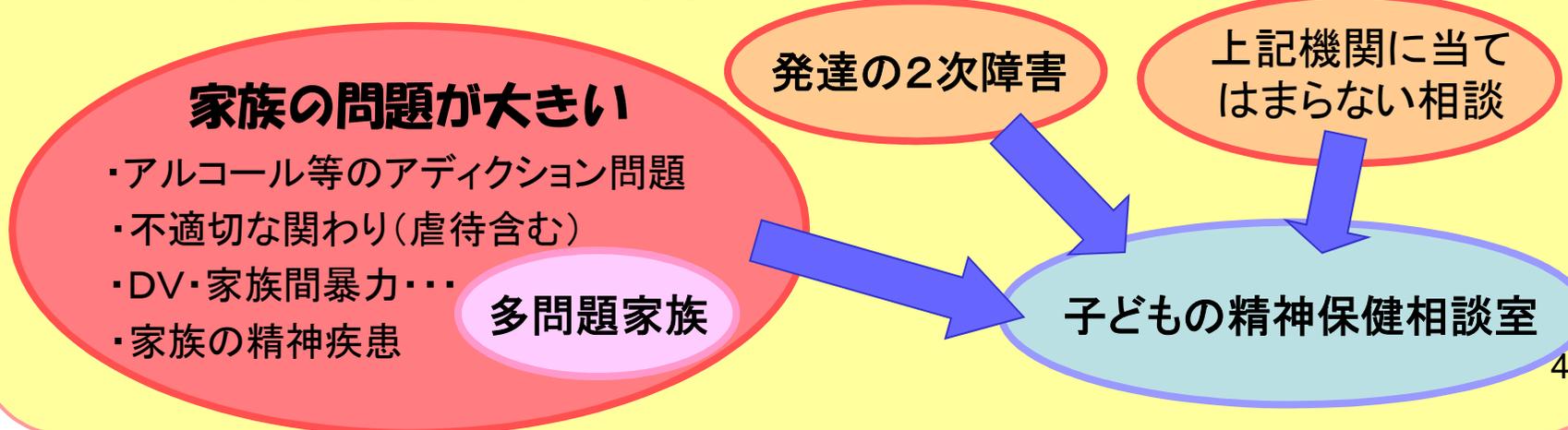
# ①相談業務



## 他機関連携先



## 子どもの精神保健相談室の対象



## ② グループ事業

### 思春期親の会コッコロン(思春期の子どもがいる親のグループ)

#### 【目的】

グループワークを通じた心理教育的アプローチを行うことにより、参加者がエンパワメントされ、家族機能が高まる

#### 【対象・定員】

当センターで継続相談中の保護者10名程度

#### 【日程】

6回1クールを

年度1回開催



#### 【内容】 前半:講義 後半:座談会(分かち合い)

	テーマ	担当
第1回	『FIT作成』『思春期の心理について』	臨床心理士
第2回	『思春期に現れやすい精神疾患について』	精神科医
第3回	『家族の関係を振り返ってみよう』	臨床心理士
第4回	『子どもと上手に関わるためのポイント①』	保健師
第5回	『子どもと上手に関わるためのポイント②』	保健師
第6回	『FIT作成』 まとめ&交流会	臨床心理士

# 発達課題がある子どもたち ～家族のための勉強会～

## 【目的】

発達障害の子どもと接している保護者が、心理教育的アプローチを通して思春期の発達障害について理解を深める

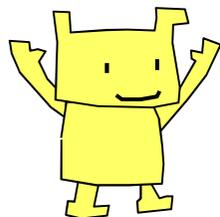
## 【対象】

当センターで継続  
相談中の保護者

## 【内容】 前半：講義 後半：座談会(分かち合い)

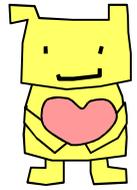
## 【日程】

4回1クールを  
年度1回開催



	テーマ	講師
第1回	『思春期の発達障がいについて』	こころの健康センター非常勤医師(精神科医)
第2回	『家族対応のヒント』	障害者総合支援センター職員(臨床心理士)
第3回	『思春期の性』	武蔵野市特別支援教室指導員 視覚発達支援センター 学習支援室 室長
第4回	『先輩保護者の話』	埼玉親の会「麦」

H29年度は延52名参加



# コッコロンVillage(子どもグループ) ①



## 【目的】

自宅以外の活動場所・居場所を提供し、子どもたち同士が安全に触れ合うことで、主体性や自主性が養われる

## 【対象】

当センターで継続相談を行っており、コッコロンVillageに参加を希望する方 \* 個別・グループ担当者が適当と認めた方

## 【定員】

8名程度



## 【スタッフ】

2名

## 【参加人数】

延151名

(H29年4月～H30年1月 計38回開催) 平均4名参加

# コッコロンVillage(子どもグループ) ②

## 【日程】

毎週月曜日 12:00～16:00

## 【内容】

- ・フリープログラム(基本)
- ・ゲーム(DS・Switch・トランプ・UNO等)
- ・卓球・ストラックアウト
- ・スタッフとの交流

## 季節のイベント

8月:かき氷大会

12月:クリスマス会

3月:年度末お楽しみ会



毎年恒例のイベントです!!

## グループの効果

- ◎自分ひとりではない
- ◎人と関わることの楽しさ
- ◎自分が役に立つという自信
- ◎家族と離れて学校や家庭の話ができる
- ◎それぞれのペースで体験していける

## 特徴

- ◎子ども自身が過ごしかたを決める
- ◎廊下や他の部屋も活動場所
- ◎複数のスタッフが見守り
- ◎事前事後のミーティングや事例検討

# 活動風景①



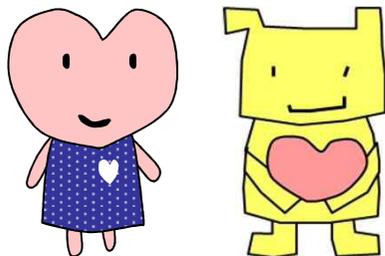
卓球



トランプ、DS他

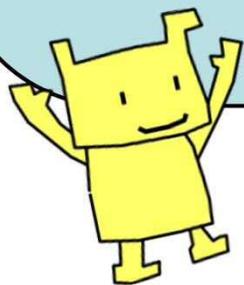


みんなでWii



# 活動風景②

## 白玉かき氷大会



クリスマスパーティ

### ③ 心理教育・心理療法

## 依存症者の子ども向け心理教育 サバイバーキッズ プログラム (Survivor-Kids Program)

～ こころの健康センター・児童相談所共催事業 ～

依存症者の家族がいる家庭に育つ児童は、感情的問題、対人関係問題、低い自己評価、生活技術の知識不足、不健康な役割を担う、不登校、虐待等の様々な問題が生じると言われます。そのため、こころの健康センターでは、依存症等による機能不全家庭の中を頑張って生き抜く子どもの勇気を尊敬して、子どもたちを「サバイバーキッズ」と呼んでいます。

暖かい雰囲気の中で視覚的なツールを活用し、依存症についての情報提供を行いながら、「キミのせいではないよ」「キミひとりではないよ」というメッセージを子ども自身に感じてもらうことを目的に、H23年度試行的に実施し、H24年度以降も継続しています。

#### 【対象・参加者】

- 当センター・児童相談所・児童養護施設で支援している児童  
(行動化の激しい事例・身体及び性的虐待が現在行われている事例は除く)
- 児童の親の治療が安定している
- 児童養護施設、里親等、親から離れている環境
- グループワークに参加できる
- 支援者が継続的に支援している

#### 平成29年度実施状況

- こころの健康センター、児童相談所担当者打合せを年10回実施。
- 8月、12月に新規・フォロー混合グループを実施し、延22名参加。
- 随時、事業の実施報告を行っている。

## 子どもへの『招待状』

さま



★★★ サバイバーキッズ プログラム

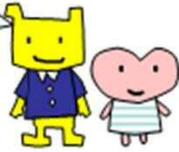
# Survivor-Kids Program 2016

日時：2016年12月22日（木）PM2:00～4:30頃  
 場所：こころの健康センター子どもの精神保健相談室  
 内容：紙芝居「ボクの冒険のはじまり」  
 サバイバーキッズってなに？  
 おうちのことについて少し勉強  
 気持ちいろいろ など  
 最後に自由参加でフリータイム（Wii・DSなどなど）

こんにちは！  
 プログラムを通して、ほんの少しでもみんなの気持ちが  
 楽になったり、来てよかった、と覚えてもらえたらいいな。  
 よかったら来てくださいね！（^^）！



こころの健康センター  
 本名・糸田・高橋  
 児童相談所 北田・滝沢  
 より



## 紙芝居「ボクの冒険のはじまり」

### 紙芝居 「ボクの冒険のはじまり」



絵本も  
あります



「きもちいろいろ  
あれこれ」

楽しい気持ちも、  
嫌な気持ちも、

どんな気持ちも  
あっていい！



## ミニ勉強会 「キノーフゼン家族って？」

ごちゃごちゃした家＝キノーフゼン家族

- ・安心できない
- ・あたたかいお風呂や、ご飯がない
- ・気持ちを話せない
- ・約束を守ってもらえない



キノーフゼン家族の中でよくあるルール

(本当は守らなくていいルール)

- ・家の中のことは話してはいけない
- ・頑張らなくちゃいけない
- ・自分のせいだと感じてしまう

## みんなに伝えたいこと

- ・家族のけんかや暴力は  
あなたのせいではないこと
- ・家の中のごちゃごちゃは  
あなたのせいではないこと
- ・いろいろな気持ちがあってもいいこと
- ・サバイバーキッズは、ひとりぼっち  
じゃないこと
- ・だれかに話をすると、ちょっぴりラク  
になるかもしれないこと



# DV・虐待プロジェクト

～ こころの健康センター・児童相談所・男女共同参画共催事業 ～

虐待とDVの中にいる子どもは、感情的問題、対人関係的問題、低い自己評価、生活技術の知識不足、不健康な役割を担う、不登校など様々な問題を被ることが知られている。

母子相談に関わる支援者が、DVの中にいる母子について理解し、対象者に心理教育的アプローチができることを目的に活動するプロジェクトとして立ち上げた。

## 平成29年度実施状況

- 男女共同参画課主催「傷ついた心のケア講座」の参加者とその子どもに対し、親子グループが8月と12月開催され、当日運営に協力した。



**あなたは  
かけがえのない、  
世界でたった一人  
のたいせつなひと。  
そのままのあなたが  
すてき。**

親子グループ  
参加者への  
メッセージ



# 性暴力(性加害・性被害)対応プロジェクト

～児童相談所・こころの健康センター協力事業～

性加害行動を行った子ども及び性被害を受けた子どもの相談は、児童相談所のみならず、こころの健康センターでも求められるようになっていきます。そのため、支援技術や必要な知識を整理し、市内での支援を充実させることを目的に始められました。

- ・性暴力(性加害・被害児)への支援に関する各機関の取り組みや収集した情報の共有、今後の取り組みの策定を目的とした打合せを8回行った。
- ・児童相談所での性被害の Protokol 面接研修に一部参加。
- ・性加害児の支援に関する研修(スーパービジョン及び講義)に3回参加。
- ・里親向けに性教育を実施するための企画・資料作成などのために打ち合わせを11回、性教育を2回実施した。

# PCIT (Parent Child Interaction Therapy) (親子相互交流療法)

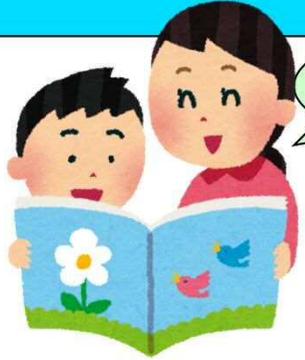
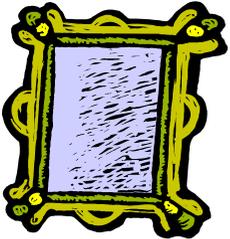
トラウマをはじめ、さまざまな問題を背景に、関係を築くのが難しい子どもとその養育者に向けて開発された、行動療法の基本概念をベースにした心理療法

**前半: CDI** 親子関係の改善  
子どもとの関係を築くために、  
子どものリードについていく際に  
大切なスキルを学習



**後半: PDI** 効果的で適切なしつけ  
子どもが言うことを  
きけるように、効果的で適切な  
指示のためのスキルを学習

ワンウェイミラー越しなどで、親子の交流を観察し親子関係が改善するようコーチングしていく(全15回前後)



主に2~7歳対象

DV被害を受けた母子や、  
児童虐待のある親子関係の改善に  
効果があるという実証研究があります

**平成29年度実施状況**  
支援課ケース1組、スーパーバイズ5件

# CARE (Child Adult Relationship Enhancement)

**CARE**  
～子どもと大人のきずなのために～

1日5分でOK!

子どもとうまくつきあうために使いたい3つのP

**くり返す [Paraphrase]**  
子どもの適切な言葉をくり返しましょう  
例) 子どもが「車で遊ぶんだ!」と言ったら、「車で遊ぶのね」とくり返してあげる

**適切な行動を言葉にする [Point out]**  
適切な行動を言葉にしましょう  
例) 子どもが積木でお城を作っていたら、「積木でお城を作っているんだね」と言ってあげる

**具体的にほめる [Praise]**  
適切な行動を具体的にほめましょう  
例) 騒がずに電車に乗っていたら、「電車で静かに乗ってくれてうれしい!」と言ってあげる

さいたま市こころの健康センター 作成

このマグネットは平成24年度埼玉県自殺対策緊急強化基金事業費補助金により、1,000個作成しています。

**子どもと良い関係でいたい! でも...**

自分の子どもと仲良くしたい、言い争いをしたくないと思っている親御さんは多いかと思いますが、でも、実際は日々の生活に追われ、なかなか子どもとじっくり向き合う時間が取れないのが現状なのではないでしょうか?  
そんな中、子どもが言うことを聞いてくれないと、仲良くするどころかつい叱ってばかりになってしまい...と悩まれている相談をよく受けます。

**短い時間でもできることはある!**

でも、短い時間でも子どもとしっかり関わると関係が良くなり、子どもが言うことをしてくれるようになることがあります。  
また、それにはいくつかポイントを抑えた関わり方をするとより効果的です。  
今回ご紹介するCAREプログラムでは、1日5分間程度でもポイントをおさえた関わりをしていけば、関係が改善していくと説明されています。では、どういった点に気をつけていけばいいのでしょうか?

**子どもとの関係を良くするにはどうしたらいい?**

CAREプログラムの中では、子どもとの関係を改善していくためには「**子どものリードに大人がついていく**」ことが大切であると説明しています。それは、こちらがリード(指示や注意など)ばかりしていると、どうしても言い争いをしやすくなってしまいうので、少しの間、子どもにリードを取らせてあげることでコミュニケーションの良い循環を作ることが大切だからです。

**関係をよくする3つのポイント**

子どものリードについていくには「3つのことを減らし、3つのことを増やす」ことが大事だと説明されています。

**減らしたい3つのポイント**

命令する	私の絵に動物を描いて。こんな風にやってみたら?
質問する	電車で遊びたいの? 紫色にするの?
禁止や否定的な言葉かけをする	そんな顔するのは嫌いよ。泣かないで!

※まったく使ってはだめということではありません。減らせるとうれい関わり方です。

**増やしたい3つのポイント**

適切な会話をくり返す	子どもが「車で遊ぶんだ!」と言ったら、「車で遊ぶのね」とくり返してあげる
適切な行動を言葉にする	子どもが積木でお城を作っていたら、「積木でお城を作っているんだね」と言ってあげる
適切な行動を具体的にほめる	騒がずに電車に乗っていたら、「電車で静かに乗ってくれてうれしい!」と言ってあげる

専門職を対象とした、子どもへのかかわり方を学ぶ心理教育的介入プログラム  
保護者にも応用し実践している



ワークショップは  
ロールプレイを交えた  
実践方式!

**平成29年度実施状況**  
**<専門職向け>**  
 ・市職員向けワークショップを年1回実施。22名参加。  
**<保護者向け>**  
 ・思春期親の会「ココロン」にて、保護者向けグループを1クール(2回)実施。延7名参加。  
 ・保健センター(中央・南)にて保護者向けグループを3クール(各3回)実施。延47名参加。

## ④ 教育研修

### 「ストレスケアに関する基本的な知識と実技(ヨガ)」

保健・福祉・教育分野の職員向けに開催

講師:大滝 涼子先生 14名参加

### 「専門職向けCAREワークショップ」

保健・福祉・教育分野の職員向けに開催

講師:子どもの精神保健相談室 職員(トレーナー)

22名参加(各分野からの職員が参加)

### 「思春期の子どもの心(特徴)と大人の役割」

保健・福祉・教育分野の職員向けに開催

講師:嵐山学園 早川 先生

76名参加(さいたま市62名・埼玉県14名、教育関係者が多く参加)



## ⑤ 普及啓発

## ⑥ 会議等への出席

- ・さいたま市要保護児童対策地域協議会(各区会議年1回、実務者各区年4回)等の会議や ケースカンファレンスに随時参加
- ・子どもサポートネットワーク会議・特別支援教育推進ネットワーク連絡会等(教育)

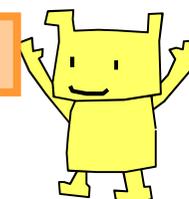
など

## その他(依頼教育)

- ・「境界線って何?」(市内中学校生徒向け)
- ・「思春期教室」(市内中学校生徒向け)
- ・「配慮が必要な子への対応と職員のメンタルヘルス」(市内教職員向け)
- ・さいたま市地域支援ネットワーク会議
- ・養護教諭、特別支援コーディネーター向け研修
- ・いじめなどの困難を抱える子どもへの支援(いじめのない街づくり委員)

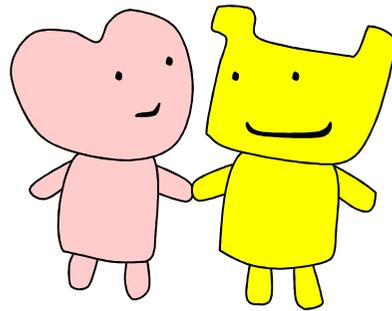
など

いろいろなことに取り組んでいます!!



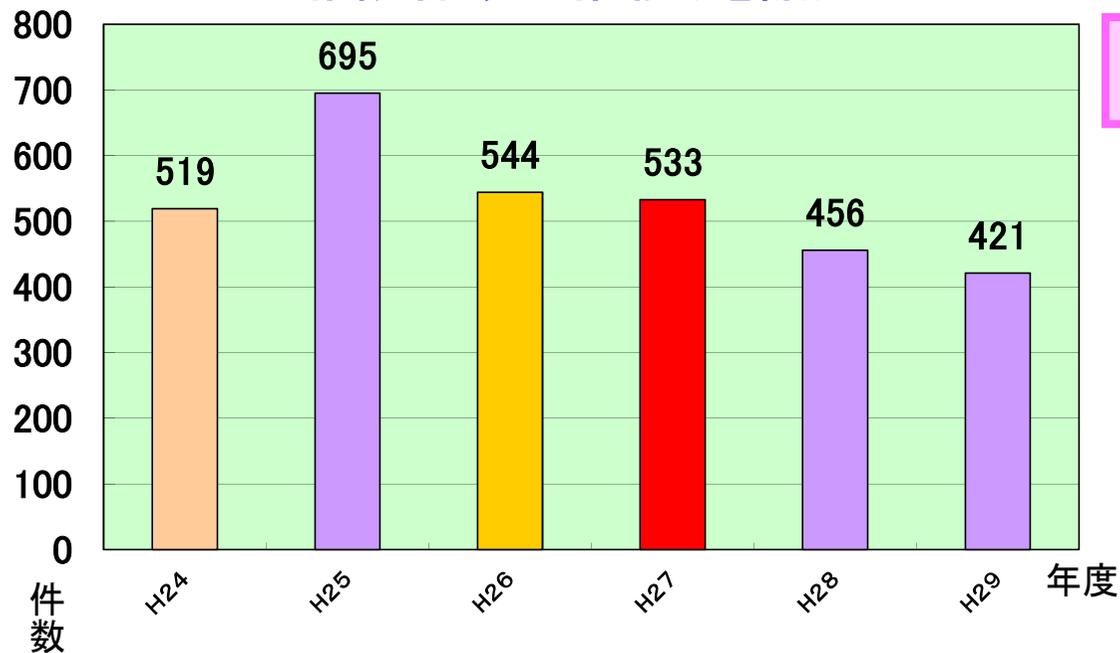


# 相談の実際



# 統計

## 相談件数の推移(電話)



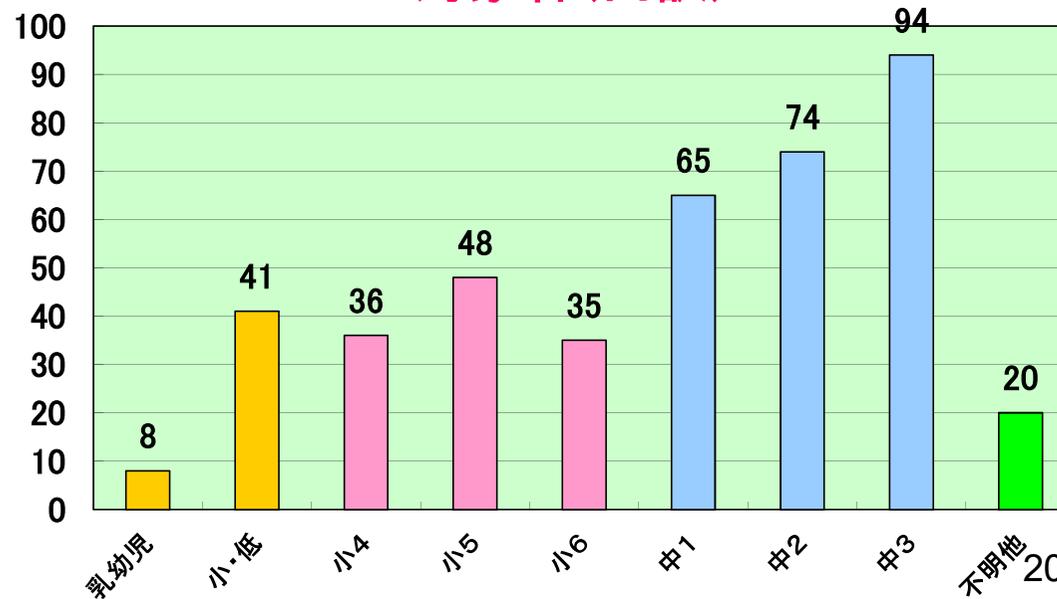
電話相談



平成29年4月1日～  
平成30年3月8日

電話相談 延421件

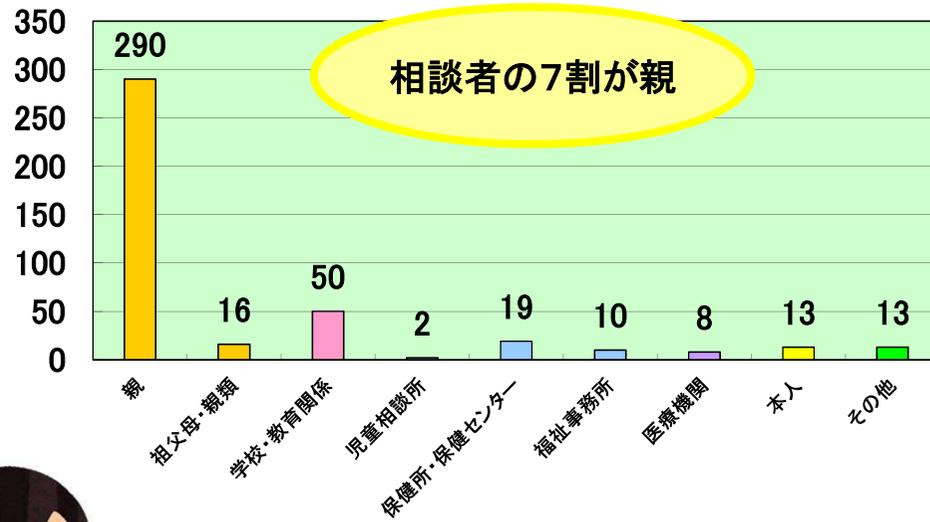
## 対象者(内訳)



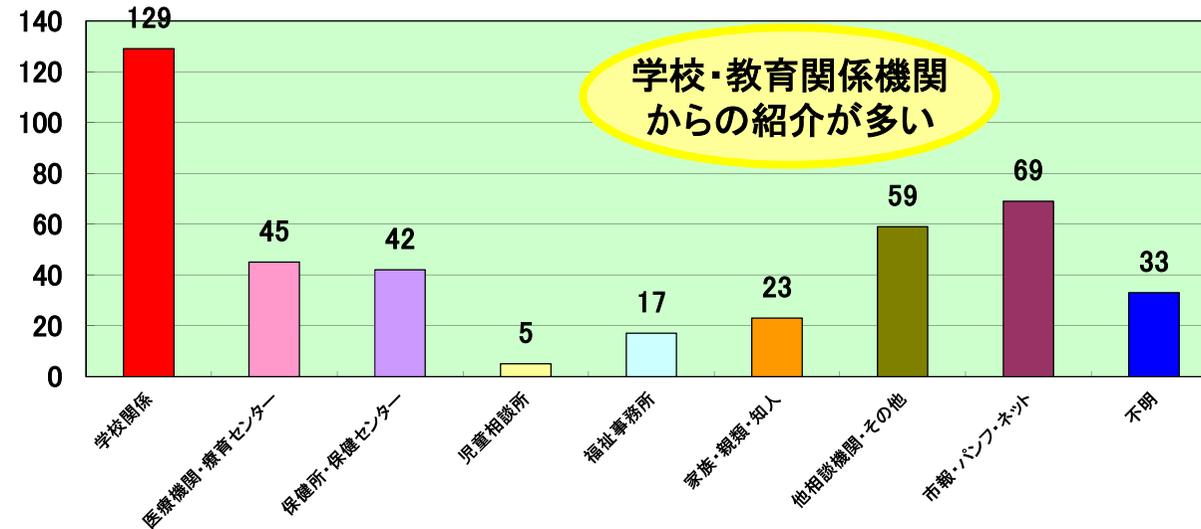
男子 196人 不明 18名  
女子 201人 その他 6名

中学生の相談が全体の55%

相談者(内訳)

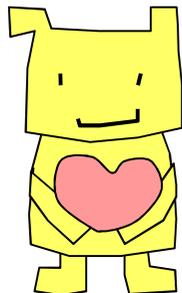


相談経路(内訳)



## 相談内容(電話相談時の主訴)

学校に行けない	88(21%)	身体症状がある	10(2%)
家族の接し方	44(10%)	自傷行為	20(5%)
本人の性格・対人関係	9(2%)	強迫症状	12(3%)
発達障害に関する悩み	34(8%)	食行動の問題	11(3%)
奇異な言動	5(1%)	睡眠の問題	3(1%)
性の問題	11(3%)	不安が強い	15(4%)
医療機関など情報提供	27(6%)	イライラしている	15(4%)
自殺関連	11(3%)	落ち込んでいる・抑うつ的	8(2%)
ゲーム・携帯・PCにハマっている	17(4%)	その他	81(19%)



(平成29年4月1日～平成30年3月8日)

## 来所・継続相談

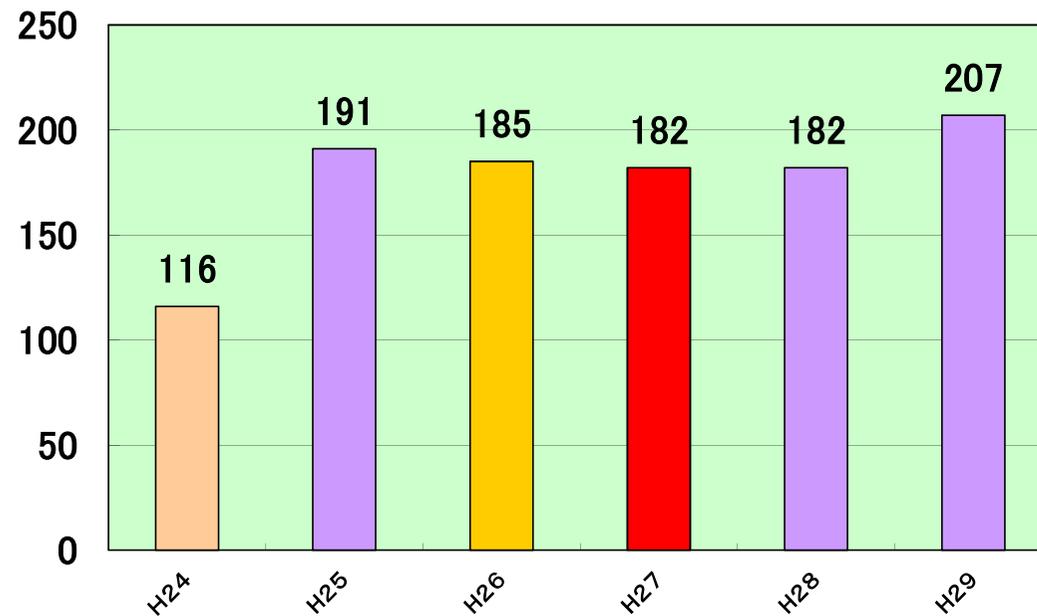
延2071件 (実数201件、うち本人来所89件)



### ◆内訳

来所	1301件 (62.8%)
電話	661件 (50.8%)
訪問	80件 (4.0%)
メール	43件 (2.1%)
手紙	20件 (1.0%)

### 相談件数(実数)の推移



## 来所・継続相談

(平成29年4月1日～平成29年3月8日)



### その他再掲

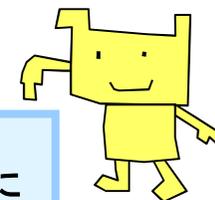
	実件数
不登校 (傾向含む)	99件 (48%)
発達障害 (傾向含む)	93件 (45%)

来所ケースの  
約5割が不登校

来所ケースの  
約5割に発達の心配

### 暴力の有無 ◆実数(重複有)

虐待(身体・心理・養育放棄・性)	32件 (15.0%)
DV(身体・精神・性)	35件 (17.0%)
その他の暴力(本人・他家族)	30件 (14.4%)



- ・子どもの精神保健に関する問題を主訴として来所したケースには**虐待・DV・暴力の問題**があることが少なくない！
- ・相談を重ねることにより、家族の全体像が明らかとなり、**電話相談時とは異なる課題や問題が浮上**
- ・家族全体を見る視点と関係機関との連携を大切にしています！

# 現在の課題

- 様々なトラウマを抱える多問題家族の支援が必要。

- 親の心理教育、エンパワメント支援

- 本児ときょうだいのケア（心理教育、認知行動療法など含む）

- 関係機関との連携、助言

丁寧な支援を要し、回復に時間がかかるためマンパワーが足りない。

- 保護者からの小3未満の児童の相談も少ない。また他機関からの相談も多く、対象年齢の拡大を求められている。

平成29年度

さいたま市こころの健康センター運営協議会 委員名簿

順不同・敬称略

区 分	氏 名	職 名 等
医療関係者	ひが ちか 比嘉 千賀	ひがメンタルクリニック院長
	かせ ひろゆき 加瀬 裕之	かせ心のクリニック院長
	まるき ゆういち 丸木 雄一	埼玉精神神経センター 副センター長
	みね まひと 峯 真人	峯小児科理事長

## さいたま市こころの健康センター運営協議会設置要綱

### (設置)

第1条 さいたま市こころの健康センター（以下「センター」という。）の適切かつ効果的な運営を図るため、センターにさいたま市こころの健康センター運営協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (組織)

第2条 協議会は、委員4人以内をもって組織する。

2 委員は、医療関係者から市長が委嘱し、又は任命する。

### (任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (運営)

第4条 協議会の会議は、センター長が招集する。

2 協議会は、特に必要があるときは、議事に関係のある者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

### (庶務)

第5条 協議会の庶務は、センターにおいて処理する。

### (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、センター長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。